

新宮山彦ぐるーぷ第2297回

九州、ミヤマキリシマ探勝会に参加

◇実施日 6月2日(土)～6日(木) 晴

◇参加者 沖崎吉信、児嶋道夫、梶野照雄、大江加予子・徳子、

畑林清子、高階美根子、森奈良好(2日～4日)

8名

第一交通タクシー 田中徳之

日本山岳会 大島康弘(静岡) 関口興洋(北九州) 上幸雄(首都圏)

中野雅章(静岡) 廣永俊一(熊本) 堀内博史(北九州)

大島省吾(福島) 中野八千代(東海) 岡田輝子(関西)

下畑佐和子(岐阜) 君塚桂子(上さん友人) 片手すみ

子(堀内さん友人)

12名

日本山岳会千葉支部の石岡慎介氏が我々ぐるーぷを秩父宮記念山岳賞にご推薦頂いたことから日本山岳会有志の皆さんの探勝会にお誘いいただくようになり、一昨年の伊勢路、昨年の下北半島に続き、今年も九州のミヤマキリシマ探勝会のご案内を頂いた。

もう10年近く前になるか、作業々の連続でたまには遠征も計画してほしい、との声が聞こえてきた。皆さん歳を取ってきたので、あと10年、いや5年のうちに遠征をと希望で、平成27年十二支会特別例会「羊蹄山」に参加してから、基本年一回の遠征が始まった。以後東北2回、四国と重ねてきたが、川島、山川氏の急逝やコ

ロナの影響でここ4～5年は実施できずにいた。そんなところに九州への山行案内が届いた。

皆さんにお知らせすると、すぐに9名の申し込みがあった。その後大島さんと何度かのやり取りで詳細が固まってきた。平均年齢も80歳近いので2名が辞退し、7名の参加となった。

自家用車で行くか、レンタカーを借りるか悩んだが、安全第一を優先して運転手付きのジャンボタクシーを使うことになった。

6月2日 新宮正午発、泉大津港より阪九フェリーに乗船



フェリーに乗船

泉大津港を出る

明石海峡大橋通過

正午に沖崎宅を出発して予定通り泉大津の阪九フェリー乗り場に着き、梶野君とも合流し乗船する。乗客、車両ともあまり混雑していない。大部屋一室(収容12名)が貸し切り状態だ。早速レストランで九州での安全と盛会を願い乾杯する。一時間ほどでデッキに出てみるとちょうど明石大橋の下を通過するところで、見上げる

と橋の大きさに圧倒される。

6月3日 午前6時新門司港着、吉開千乗院、大観峰、草千里登山口より烏帽子岳登山、下山後日本山岳会12名に挨拶、休暇村南阿蘇泊

翌朝、皆さん早い朝食の後下船もスムーズだ。今日はまず柳川市の吉開さんを訪ねる。高速道路を2時間近く走って柳川市に到着した。吉開さんは本山派三井寺に所属されていて、並みの行者ではない。大峰でも熱心に修行されていた。この日も願い事を書いた護摩木を護摩祈禱いただけるとのこと、後日灰を送りますと言っただけ。40分ほど滞在してお別れした。



新門司港に接岸

柳川市の千乗院

吉開さんの法螺

この後一般道で阿蘇の大観望を目指す。午前11時過ぎに到着し、車から降りて阿蘇カルデラの雄大な景色を眺める。阿蘇五岳も一望でき、スケールの大きさは紀伊半島ではお目にかからない。

いつまでもこの絶景を眺めていたいところだが、次の予定もあるので烏帽子岳登山口の有る草千里へ向かう。草千里に着くが、こちらも大観峰同様で大勢の人、駐車場もほぼ一杯で、観光地としての人気の高さが判る。



大観峰で

草千里と烏帽子岳

烏帽子岳山頂で

目の前に烏帽子岳が聳えている。今日も好天で雄々しく鎮座している。コースタイム1時間となっているが、皆さんから2時間近くかかるんじゃないかとの声が上がった。まあ行けるところまで頑張ろう！とスタート。尾根までジグザグに登って55分で山頂に着く。青岸渡寺から託された碑伝を置き勤行、20分ほどの滞在で下山した。なお今回、森奈良好君が4日迄同行することになった。彼は図書館勤務を定年退職後、郷土史研究の一環で九州を訪ねる予定があったらしく、今回の同行となった。碑伝も彼が言付かってきたものだ。

午後3時、草千里の駐車場に着く。12時半に博多駅を出発した皆

さんがそろそろ到着する時間だが、暫くしてマイクロバスが着き大島さんやお世話いただいた関口さんに挨拶する。関口さんに、烏帽子岳に登ってきた胸をお伝えしたところ、我々は山頂まで行く時間がないので、草千里の散策で切り上げる。先に休暇村南阿蘇に行ってください。と言われたので先に出発した。



休暇村南阿蘇

夕食

二次会

休暇村からも道中からも高岳、中岳、根子岳がよく見える。特に根子岳の姿が異容に思えた。

先に入浴を済ませてマイクロバスの到着を待つ。午後5時頃に皆さんが到着し夕食が始まった。わいわいがやがやと二次会も含め楽しい時間を過ごした。

6月4日 久住山登山(牧ノ戸峠登山口より)、久住高原コテージ泊

この日も晴天で、遅れている梅雨はどこへ行ったのか。午前8時休暇村を出て牧ノ戸峠へ向かう。牧ノ戸峠の駐車場は満車で、少し

離れた場所に車を停める。全員が集まり自己紹介の後、久住山を目指し出発。午前10時過ぎ過ぎだった。暫く舗装された山道を進み東屋の有る展望地に着く。



牧ノ戸峠で

東屋の展望地

ミヤマキリシマ

ここでしばらく休憩、ここから引き返す組、もう少し先まで足を延ばす組、山頂を目指す組に分かれて行動する。我々山彦組は山頂を目指す。岩場を数カ所越えて広い尾根に登りつくと、そこからしばらくは大きな登り下りが無く少し楽になる。左前方に大きく高い山が見えてきた。あそこ迄、と思っていたらあの山は星生山で、久住山はまだ先だという。ガツクリだ。

今回メインのミヤマキリシマは昨日の烏帽子岳では咲終わっていたが、今日スタート前に関口さんから、ここ久住では標高1,500m以上で開花が期待できる。とお話があった通り斜面のミヤマキリシマが咲きそろっている。群生して咲いている様は素晴らしい。始めて見る光景だ。やっと避難小屋とトイレがある所に着いた。

お昼を過ぎていたので昼食にしようと思案するも、山頂まで30分ほど頑張ろうということになりしどろどろ歩き出す。最近長距離を歩いているのと空腹で、山頂までが遠かった。



山頂に碑伝奉納

児嶋さんのコーヒー

下山

途中で梶野君が下山してきた。清ちゃんは避難小屋から引き返して下山。登山口から3時間ほどかかって、やっと頂上に立つことができた。昼食も山頂で頂いた。食後は児嶋さんがコーヒーを淹れてくれた。

30分位山頂に滞在して下山。森君とは牧ノ戸峠でお別れした。この日も山彦組が先行して宿泊先の久住高原コテージに向かった。久住高原コテージは周りに何もない木造平屋建ての施設で、雰囲気のある露天風呂に浸かり大満足。敷地面積が広いので、風呂の生き返りにちょっと迷ってしまった。

夕食は午後7時40分からで、食事中に明日予定している韓国岳について、一昨日登った大島さん兄弟に尋ねると、久住山より厳しい、

足場が悪い所も多く、ここから登山口のえびの高原までは車で3時間以上かかると言う。隣の高千穂峰についても聞いてみたが、韓国岳以上に厳しい、とお答えを頂いたので明日予定していた韓国岳登山は中止し観光ツアーに変更した。



久住高原コテージ

夕食

二次会

6月5日 菅尾摩崖仏、原尻の滝、天岩戸神社、高千穂峡、シーガイア、宮崎港より宮崎カーフェリーに乗船

翌朝、日本山岳会有志の皆さんとお別れして大分、宮崎方面に向かう。田中運転手は前夜からタブレット端末で観光情報を集めてくれ、この日は菅尾の摩崖仏、原尻の滝、天岩戸神社、高千穂峡、シーガイアを巡り、夕方宮崎港からフェリーに乗船して帰路についた。

6月6日 午前7時30分神戸港着、新宮にお昼過ぎ帰着、解散

天安河原



出発前、全員で



高千穂峡



菅生摩崖仏



宮崎港、フェリーに乗船



原尻の滝、



私達新宮山彦ぐるーぷも本年創設50年、千日刈峰行開始から40年、また大峯奥駈道が世界文化遺産に登録されて20年と大きな節目の年である。これまで多くの方々を支えられて歩んできたが、日本山岳会とのお縁は今から52年前の1972年、故今西錦司先生との出会いから十二支会加入、秩父宮記念山岳賞の受賞となり、今回のお誘いも頂いた。すべてに感謝である。お世話いただいた方々、参加された皆さんに厚くお礼申し上げます。
(記；沖崎)